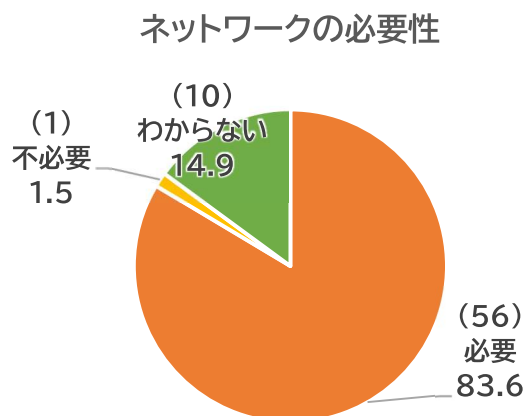


Q26 活動を継続する上で、ネットワークは必要と感じているのかを選択してください。

図表29:ネットワークの必要性（回答数:67）



Q27 ネットワークが必要と考える理由を選択してください。

図表30:ネットワークが必要と考える理由（回答数:56）

| ネットワークが必要と考える理由  | (複数回答) | %     |  |
|------------------|--------|-------|--|
| 情報が得られる          | 45     | 80.4% |  |
| 新たな人脈を得られる       | 36     | 64.3% |  |
| 新たな気付きを得ることができる  | 36     | 64.3% |  |
| 得意分野を補え合える       | 30     | 53.6% |  |
| 異分野の活動を知ることができる  | 28     | 50.0% |  |
| 発信力が高まる          | 25     | 44.6% |  |
| 信頼関係を築くことができる    | 23     | 41.1% |  |
| 誰がどこで何をしているかがわかる | 14     | 25.0% |  |
| 社会的信用が高まる        | 12     | 21.4% |  |
| 上記以外             | 1      | 1.8%  |  |

Q28 どのようなネットワークがあると良いと思うかを選択してください。

図表31:どのようなネットワークがあると良いと思うか（回答数:56）

| ネットワーク                 | (複数回答) | %     |
|------------------------|--------|-------|
| 同じ分野で活動する団体間のネットワーク    | 44     | 78.6% |
| 行政が参加するネットワーク          | 28     | 50.0% |
| 他の分野で活動する団体が参加するネットワーク | 23     | 41.1% |
| 他の地域で活動する団体も参加するネットワーク | 21     | 37.5% |
| 近隣市町村との地域間ネットワーク       | 21     | 37.5% |
| 企業が参加するネットワーク          | 20     | 35.7% |
| 市町村単位のネットワーク           | 17     | 30.4% |
| 県域規模のネットワーク            | 16     | 28.6% |
| 地縁組織が参加するネットワーク        | 14     | 25.0% |
| 研究機関や専門家等が参加するネットワーク   | 13     | 23.2% |
| 東北規模のネットワーク            | 11     | 19.6% |
| 全国規模のネットワーク            | 11     | 19.6% |
| 上記以外                   | 0      | 0.0%  |

Q29 ネットワークの会合開催頻度はどのぐらいが良いのかを選択してください。

図表32:ネットワークの会合開催頻度（回答数:56）

| 開催頻度   | 回答数 | %     |
|--------|-----|-------|
| 週1回    | 0   | 0.0%  |
| 半月に1回  | 0   | 0.0%  |
| 月1回    | 10  | 17.9% |
| 2ヶ月に1回 | 12  | 21.4% |
| 3ヶ月に1回 | 10  | 17.9% |
| 4か月に1回 | 1   | 1.8%  |
| 半年に1回  | 11  | 19.6% |
| 年1回    | 3   | 5.4%  |
| 必要に応じて | 9   | 16.1% |

Q30 ネットワークについて、不必要と考える理由を選択してください。

(Q26で「不必要」と回答した団体のみ)

図表33:ネットワークは不必要と考える理由 (回答数:1)

| ネットワークは不必要と考える理由    | (複数回答) | %      |
|---------------------|--------|--------|
| ネットワークに充てる時間が足りない   | 0      | 0.0%   |
| ネットワークに参加する人手が足りない  | 0      | 0.0%   |
| ネットワークに充てる資金が足りない   | 0      | 0.0%   |
| 団体内部で取り組みへの理解が得られない | 0      | 0.0%   |
| 面倒である               | 0      | 0.0%   |
| 必要を感じない             | 1      | 100.0% |
| 団体のミッション・目的とが合わない   | 0      | 0.0%   |
| ネットワークに興味がない        | 0      | 0.0%   |
| 上記以外                | 0      | 0.0%   |

Q31-① 日頃の支援活動で感じていること、社会の人々にぜひ知っておいてほしいことなど、  
どんなことでも結構です。ご自由にお書きください。

図表34-①:自由記述 10/20 (回答数:20) ※一部編集(固有名称・地域が特定できる記述は省いた)

|    |                                                                                                                                                                                |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | やはり、人材確保(ボランティア確保)が一番の悩みです。                                                                                                                                                    |
| 2  | 当医師会での活動にあてはまる具体的項目が見当たりませんでした。                                                                                                                                                |
| 3  | 当法人は設立して間もなく、法人運営経験者もないため、他の団体の活動を参考にしています。他の団体の人材や運営資金の確保、モチベーションの保ち方など、勉強できる機会があると嬉しいです。                                                                                     |
| 4  | 非営利活動補法人の運営に不可欠である、組織基盤の確立の重要性を多くの助成団体等を知っていた<br>ただ、特に人件費や光熱費の必要性を考慮し助成枠に取り入れていただくことが肝要と考えます<br>ので、よろしくお願い致します。                                                                |
| 5  | 孤立している人に繋がる事は、行政や社協との連携があっても難しい。隣近所の情報が必須だが希<br>薄。<br>食育が必要な人(自覚していない)には情報が届きにくく、意識の高い人には直ぐに届く。<br>どちらも、直接の働きかけが必要だが、その人を動かすまでは更に時間がかかる。<br>多方面からの多くの知見・経験を知る機会がネットワークには有ると思う。 |
| 6  | 親亡き後を見据えた障害児者の生活支援に地域格差を感じる。安心して生活できる資源があまりに<br>も少ない                                                                                                                           |
| 7  | 障害をもった方は「かわいそうな人」「保護される人」ではありません。一人の人格をもった社会に貢<br>献したいと思っている人です。自分の力で働き、生きていきたいと思っています。障害がなくても、<br>就労困難者も世の中にたくさんいます。どうか、様々なお仕事を相談していただければ、お互い協働<br>で何かを成せると思います。              |
| 8  | 絆や地域づくりをするにあたって感謝する心がとても大事だと再認識。また、被災地において、少子<br>高齢化が急速に進む中、多文化共生型の地域コミュニティづくりの促進の重要性を感じます。                                                                                    |
| 9  | 伴走型支援の「伴走」の意味は「つながりつづける」こと、「つながりを増やす」ことであり、属というマ<br>ラソンの「伴走」とは異なります。ネットワークづくりは、従来の平面的関係性ではなく、立体的な協働<br>を生み出せる関係性の構築 ⇒ 一つの事象に機能で連携し、協働して取り組める形が、有機的なネ<br>ットワークです。               |
| 10 | 山林の多面的機能(水源涵養、国土保全、生産機能、土砂流失防止など)を発揮させる為に、放置され<br>た森林を整備する必要性について。                                                                                                             |

**Q31-② 日頃の支援活動で感じていること、社会の人々にぜひ知っておいてほしいことなど、  
どんなことでも結構です。ご自由にお書きください。**

図表34-②:自由記述10/20 (回答数:20) ※一部編集(固有名称・地域が特定できる記述は省いた)

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11 | 地域子育て支援拠点を市内で唯一 NPO 法人として運営しているのが当団体です。地域で安心して産みそでたえられる環境を作り、郷土を愛し誇りに思ってもらえるよう活動しています。東日本大震災を経験し、防災を日常生活の一部とする防災イベントの取り組みや中高生ボランティアや国内外からの研修の受け入れ、地域の方々も参加できる企画など地域と連携した活動も行っています。様々な社会事象による少子高齢化や核家族化など子どもを取り巻く環境が変化している中、子育て支援の重要性を実感しています。これからも子育てしている家庭に寄り添い、当事者目線を大切に柔軟に迅速に、できるところから一步一步進んでまいります。皆様、どうぞよろしくお願い致します。 |
| 12 | 日中働くことができない方のために、通所の生活介護を運営しているが、看護職員がいないと減算になるという決まりの意味がないような気がする。現場と机上のギャップをいつも感じている。                                                                                                                                                                                                                                  |
| 13 | ネットワークは重要であるが、ただ情報共有のみのネットワークでは、そのことに重きが置かれている地域の状況やそのことに優先順位が高い団体が集まっていればよいが、そうでなければなかなか長続きはしない現状がある。                                                                                                                                                                                                                   |
| 14 | 新たな地方創生がこれからのカギとなる                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 15 | 事業を継続していくには、後継者問題が大きいと感じている、年月と共に代表者も高齢になり、後を引き受けてくれる人材の確保が難しく、苦慮している。                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 16 | これまでの活動に加え、今年度新たな事業を開始しました。地域で初めての分野(産福連携支援)で、大きな広がりを見せています。支援する立場である私たちが少し頑張ることで解決していく課題がたくさんあることを改めて実感しています。これからも、多様な世代の方々の社会参加を促進していきたいと思います。                                                                                                                                                                         |
| 17 | ネットワークの多様化と、ネットワーク間の(ゆるやかな)つながりが必要と考える。                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 18 | 当法人が運営する事業所の利用者さんの多くは知的障害のある方です。工作上、利用者さん、御家族の方々で接する中で、周囲から理解されないことで、生活する上で様々な苦労や困難なことに直面していることに気づかされます。私たちの支援だけでは解決できないことも多く、様々な分野の方々ともネットワークをつくることで、課題解決につながれば、と思うことがあります。                                                                                                                                             |
| 19 | ・支援する側の高齢化による活動の不安定化。<br>・支援を受ける側の対象者の超高齢化による参加者の減少、対象者の中での担い手不足。<br>・70 歳以下の加入者がいない。                                                                                                                                                                                                                                    |
| 20 | 小さいながらも継続して活動している団体などの後継者問題などがあるが、地域課題を考えると団体が継続するというよりは、課題解決への取り組みが続いていることが大事だと思っているので、新たな活動の発足など、地域での活動が続く、増えることに対しての支援を行っていかれたらと思っている。                                                                                                                                                                                |

〈自由記述の概要〉

**Q16 支援対象の属性を選択してください。**

図表35:自由記述 (回答数:11) ※一部編集(固有名称・地域が特定できる記述は省いた)

|    |                              |
|----|------------------------------|
| 1  | 具体的な事例がないため回答しかねる            |
| 2  | 地域全体                         |
| 3  | 高校生、食育が必要と思われる方、フレイルが懸念される方他 |
| 4  | 入所児童の保護者                     |
| 5  | 罪を償う人の更生                     |
| 6  | 特にない                         |
| 7  | 市民および観光客                     |
| 8  | 在住外国人                        |
| 9  | 市民活動団体、まちづくり活動団体             |
| 10 | 自閉症                          |
| 11 | 地域事業者                        |

**Q19 支援活動を実施している形態を選択してください。**

図表36:自由記述(回答数:11) ※一部編集(固有名称・地域が特定できる記述は省いた)

|   |                      |
|---|----------------------|
| 1 | 公式LINE・facebook・月刊通信 |
| 2 | 支援対象者の自宅             |
| 3 | 企業寄贈の建物              |
| 4 | 奨学金の貸与による支援          |
| 5 | 個人宅、施設、復興住宅集会所       |
| 6 | 松原で活動                |
| 7 | 訪問                   |
| 8 | こども園                 |
| 9 | 市災害公営住宅内             |

**Q20 支援の対象者は、何から情報を得て参加することが多いのかを選択してください。**

図表37:自由記述(回答数:22) ※一部編集(固有名称・地域が特定できる記述は省いた)

|    |                                                                                                           |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | チラシ                                                                                                       |
| 2  | 当団体発行の通信/行事予定表                                                                                            |
| 3  | チラシ                                                                                                       |
| 4  | 自治会からの案内                                                                                                  |
| 5  | チラシ・ポスター等                                                                                                 |
| 6  | 口コミ、回覧、月刊通信、                                                                                              |
| 7  | 施設見学                                                                                                      |
| 8  | 当法人からの案内状                                                                                                 |
| 9  | 市から学校への広報                                                                                                 |
| 10 | 毎月発行お便り、インスタグラム                                                                                           |
| 11 | 市の広報誌                                                                                                     |
| 12 | 役所                                                                                                        |
| 13 | 団体で作成・配布するチラシ                                                                                             |
| 14 | チラシ・ポスター                                                                                                  |
| 15 | 利用者からの口コミ                                                                                                 |
| 16 | 行政、相談支援事業所等                                                                                               |
| 17 | 行政、個人、病院、他施設からの紹介                                                                                         |
| 18 | 基本的には、施設を利用する場合は、相談支援事業所(他法人も含む)での計画相談を受けてから、入所・通所・グループホームと利用契約をすることになります。相談支援事業所につながるケースとしてはさまざまかと思われます。 |
| 19 | ケーブルテレビ                                                                                                   |
| 20 | ケアマネ                                                                                                      |
| 21 | 相談支援事業所                                                                                                   |
| 22 | 団体関係者からの案内                                                                                                |

**Q21 現在、機関・施設・団体などと 連携していますか？下記の中から当てはまるものを選択してください。**

図表38:自由記述(回答数:8) ※一部編集(固有名称・地域が特定できる記述は省いた)

|   |                           |
|---|---------------------------|
| 1 | 具体的な事例がないため回答しかねる         |
| 2 | 地区・地域公民館/子供会/老人クラブ/婦人会    |
| 3 | 市営住宅管理センター                |
| 4 | 民間の法人                     |
| 5 | 特になし                      |
| 6 | フードバンク、まちづくり協議会、市内子育て団体など |
| 7 | 加入 14 団体                  |
| 8 | 財団、復興支援財団                 |

Q24 貴団体が活動を継続する上で課題と感ずることの上位 3 つを選択してください。

図表39:自由記述（回答数:5）※ 1～3位まとめ(固有名称・地域が特定できる記述は省いた)

|   |                  |
|---|------------------|
| 1 | 地元にての保証人がいないこと   |
| 2 | 事務所の確保           |
| 3 | 受講生の確保           |
| 4 | 行政からの補助金・助成金の減額  |
| 5 | 将来に向けて加入団体を増やしたい |

Q25 貴団体の活動に必要なとなる支援について、上位 3 つを選択してください。

図表40:自由記述（回答数:4）※ 1～3位まとめ

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1 | 行政からの補助金・助成金の増額 |
| 2 | 事務所(入居先)        |
| 3 | 受講者の確保          |
| 4 | 特になし、自立しているので。  |

Q27 ネットワークが必要と考える理由を選択してください。

図表41:自由記述（回答数:1）

|   |             |
|---|-------------|
| 1 | 必要な支援を紹介できる |
|---|-------------|

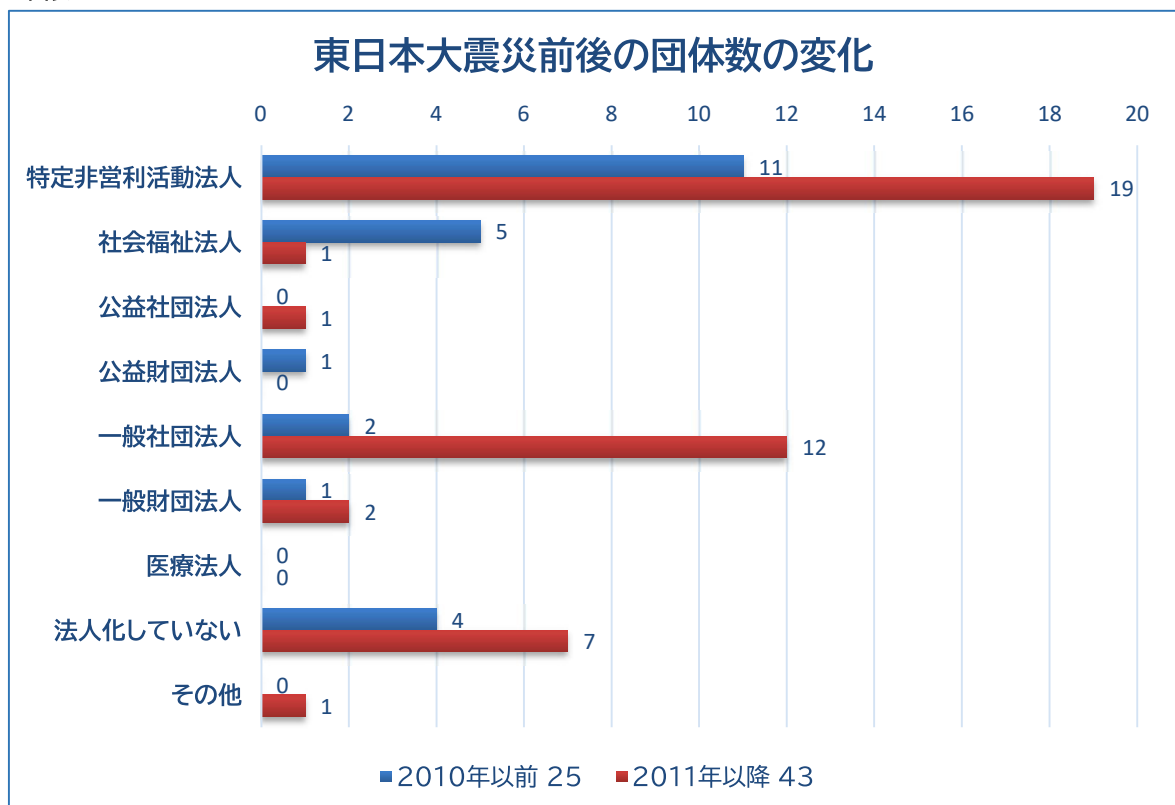
〈クロス集計による調査結果の分析〉

■東日本大震災前後の支援団体数の変化

法人格別に東日本大震災前後の団体数を比較した。

震災後の団体数の増加は明らかで、特に「一般社団法人」の増加が顕著である。

図表42



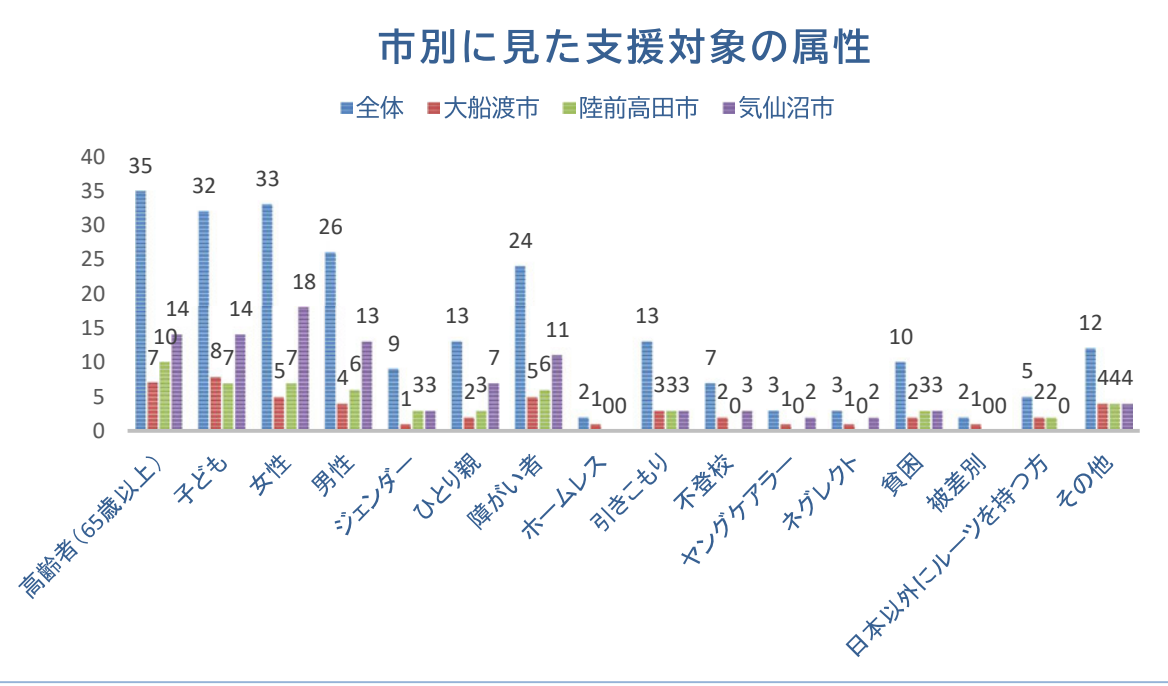
図表43

|     |           | (全体) | 2010年以前 | 2011年以降 |
|-----|-----------|------|---------|---------|
| 法人格 | (全体)      | (68) | 25      | 43      |
|     | 特定非営利活動法人 | (30) | 11      | 19      |
|     | 社会福祉法人    | (6)  | 5       | 1       |
|     | 公益社団法人    | (1)  | 0       | 1       |
|     | 公益財団法人    | (1)  | 1       | 0       |
|     | 一般社団法人    | (14) | 2       | 12      |
|     | 一般財団法人    | (3)  | 1       | 2       |
|     | 医療法人      | (0)  | 0       | 0       |
|     | 法人化していない  | (11) | 4       | 7       |
|     | その他       | (2)  | 0       | 1       |

■大船渡市・陸前高田市・気仙沼市別に見た支援対象の属性

属性の最大値は、大船渡：「子ども」、陸前高田：「高齢者」、「高齢者」、「女性」となった。  
大船渡で回答ゼロ分野はないが、陸前高田では「ホームレス」「不登校」「ヤングケアラー」「ネグレクト」「被差別」支援の回答がない。気仙沼では「ホームレス」「被差別」「日本以外にルーツを持つ方」への支援回答がなかった。

図表44



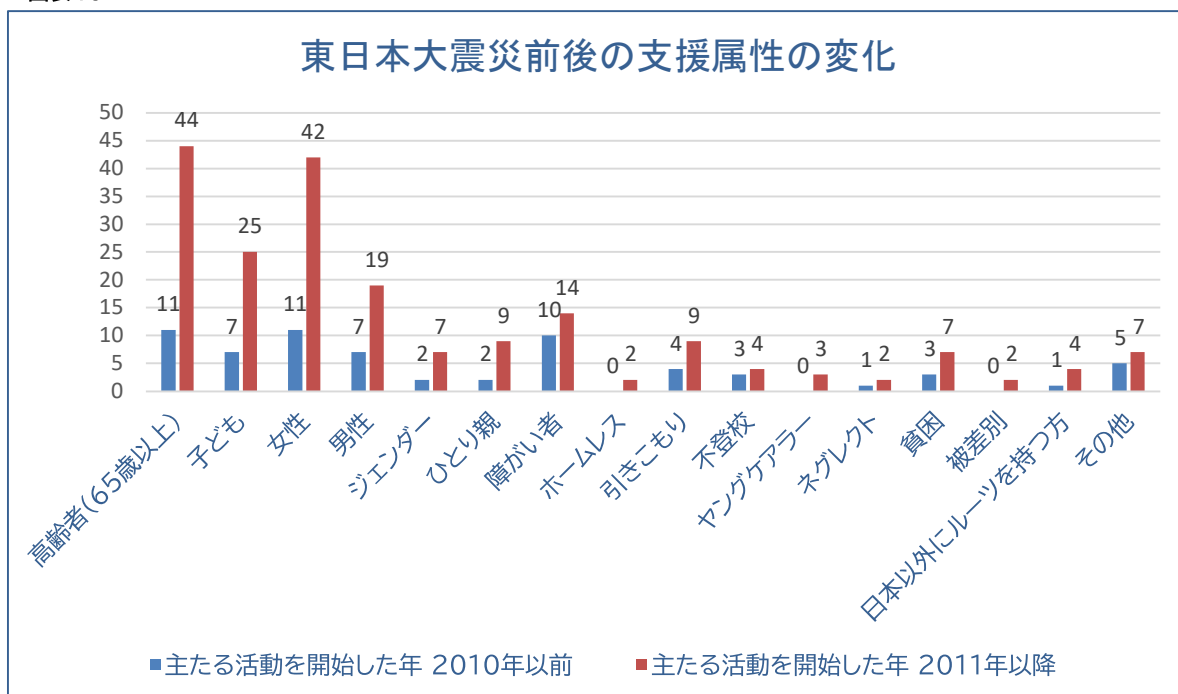
図表45

|       | 高齢者(65歳以上) | 子ども | 女性 | 男性 | ジェンダー | ひとり親 | 障がい者 | ホームレス | 引きこもり | 不登校 | ヤングケアラー | ネグレクト | 貧困 | 被差別 | 日本以外にルーツを持つ方 | その他 |
|-------|------------|-----|----|----|-------|------|------|-------|-------|-----|---------|-------|----|-----|--------------|-----|
| 全体    | 35         | 32  | 33 | 26 | 9     | 13   | 24   | 2     | 13    | 7   | 3       | 3     | 10 | 2   | 5            | 12  |
| 大船渡市  | 7          | 8   | 5  | 4  | 1     | 2    | 5    | 1     | 3     | 2   | 1       | 1     | 2  | 1   | 2            | 4   |
| 陸前高田市 | 10         | 7   | 7  | 6  | 3     | 3    | 6    | 0     | 3     | 0   | 0       | 0     | 3  | 0   | 2            | 4   |
| 気仙沼市  | 14         | 14  | 18 | 13 | 3     | 7    | 11   | 0     | 3     | 3   | 2       | 2     | 3  | 0   | 0            | 4   |
| その他   | 4          | 3   | 3  | 3  | 2     | 1    | 2    | 1     | 4     | 2   | 0       | 0     | 2  | 1   | 1            | 0   |

## ■東日本大震災前後の支援対象属性の変化

東日本大震災前に比べ「高齢者」、「子ども」、「女性」支援が大幅に増加しているが、社会全体の変化が反映している可能性もある。

図表46

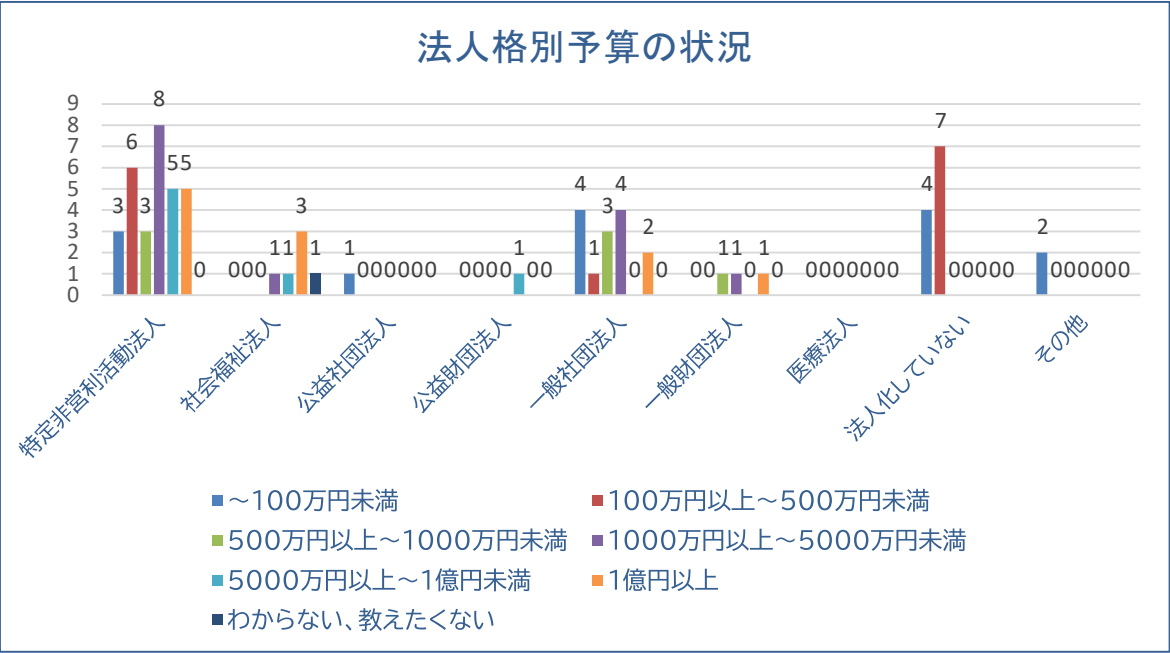


図表47

|             |         | 高齢者(65歳以上) | 子ども | 女性 | 男性 | ジェンダー | ひとり親 | 障がい者 | ホームレス | 引きこもり | 不登校 | ヤングケアラー | ネグレクト | 貧困 | 被差別 | 日本以外にルーツを持つ方 | その他 |
|-------------|---------|------------|-----|----|----|-------|------|------|-------|-------|-----|---------|-------|----|-----|--------------|-----|
| 主たる活動を開始した年 | 2010年以前 | 11         | 7   | 11 | 7  | 2     | 2    | 10   | 0     | 4     | 3   | 0       | 1     | 3  | 0   | 1            | 5   |
|             | 2011年以降 | 44         | 25  | 42 | 19 | 7     | 9    | 14   | 2     | 9     | 4   | 3       | 2     | 7  | 2   | 4            | 7   |

■法人格別予算の状況

図表48

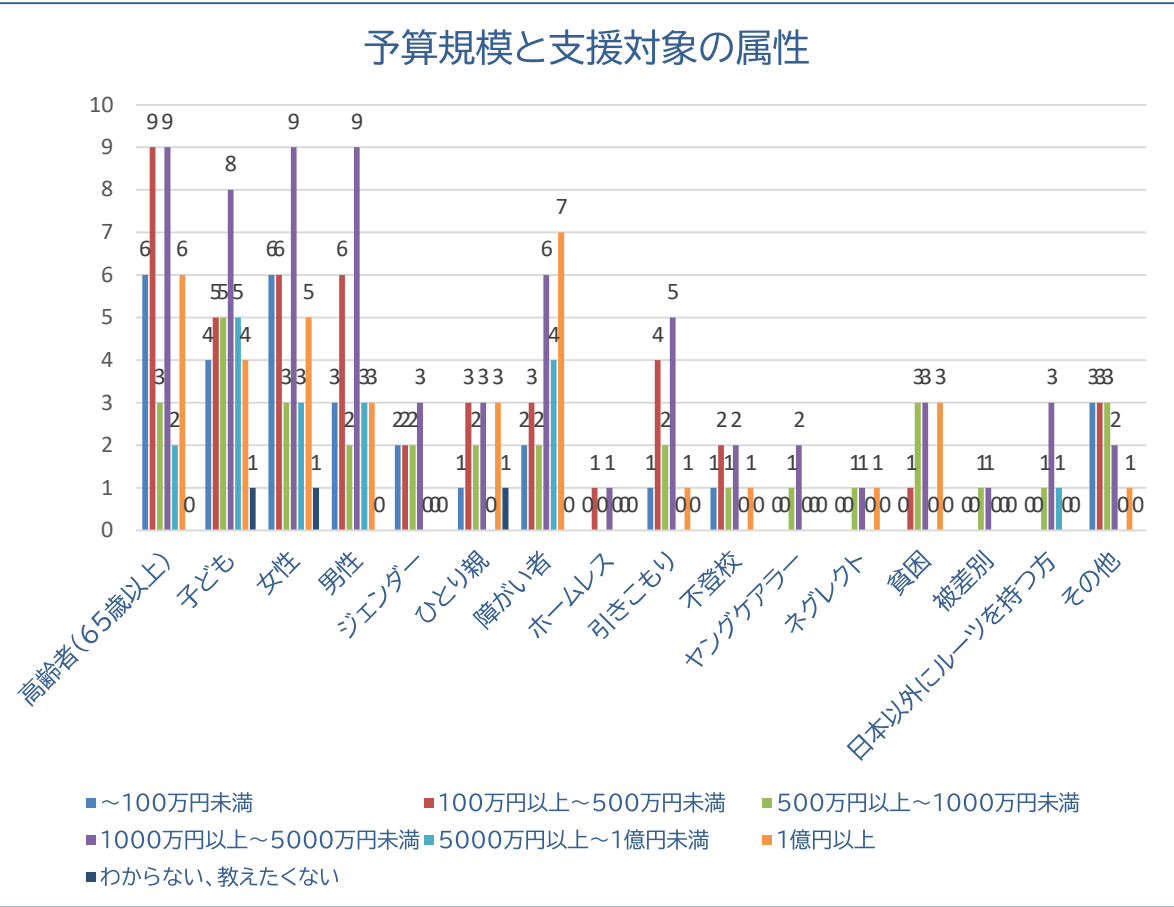


図表49

|     |           | 全体   | ～100万円未満 | 100万円以上～500万円未満 | 500万円以上～1000万円未満 | 1000万円以上～5000万円未満 | 5000万円以上～1億円未満 | 1億円以上 | わからない、教えたくない |
|-----|-----------|------|----------|-----------------|------------------|-------------------|----------------|-------|--------------|
| 法人格 | 全体        | (68) | 14       | 14              | 7                | 14                | 7              | 11    | 1            |
|     | 特定非営利活動法人 | (30) | 3        | 6               | 3                | 8                 | 5              | 5     | 0            |
|     | 社会福祉法人    | (6)  | 0        | 0               | 0                | 1                 | 1              | 3     | 1            |
|     | 公益社団法人    | (1)  | 1        | 0               | 0                | 0                 | 0              | 0     | 0            |
|     | 公益財団法人    | (1)  | 0        | 0               | 0                | 0                 | 1              | 0     | 0            |
|     | 一般社団法人    | (14) | 4        | 1               | 3                | 4                 | 0              | 2     | 0            |
|     | 一般財団法人    | (3)  | 0        | 0               | 1                | 1                 | 0              | 1     | 0            |
|     | 医療法人      | (0)  | 0        | 0               | 0                | 0                 | 0              | 0     | 0            |
|     | 法人化していない  | (11) | 4        | 7               | 0                | 0                 | 0              | 0     | 0            |
|     | その他       | (2)  | 2        | 0               | 0                | 0                 | 0              | 0     | 0            |

■ 予算規模と支援対象の属性

図表50



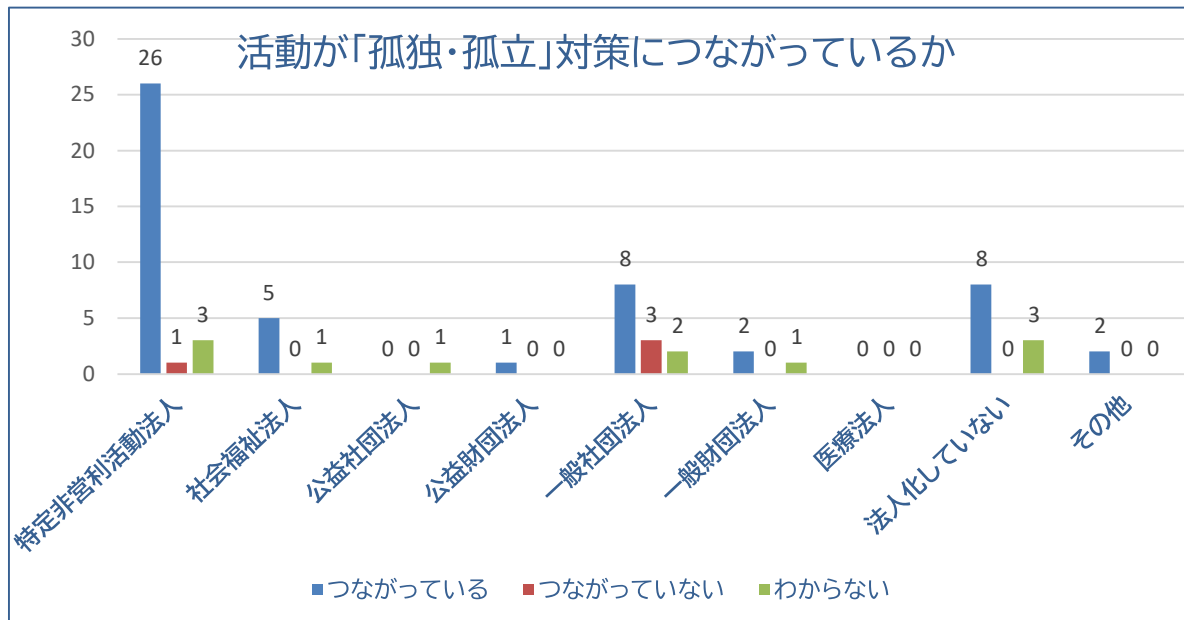
図表51

|                   | 高齢者(65歳以上) | 子ども | 女性 | 男性 | ジェンダー | ひとり親 | 障がい者 | ホームレス | 引きこもり | 不登校 | ヤングケアラー | ネグレクト | 貧困 | 被差別 | 日本以外にルーツを持つ方 | その他 |
|-------------------|------------|-----|----|----|-------|------|------|-------|-------|-----|---------|-------|----|-----|--------------|-----|
| ~100万円未満          | 6          | 4   | 6  | 3  | 2     | 1    | 2    | 0     | 1     | 1   | 0       | 0     | 0  | 0   | 0            | 3   |
| 100万円以上~500万円未満   | 9          | 5   | 6  | 6  | 2     | 3    | 3    | 1     | 4     | 2   | 0       | 0     | 1  | 0   | 0            | 3   |
| 500万円以上~1000万円未満  | 3          | 5   | 3  | 2  | 2     | 2    | 2    | 0     | 2     | 1   | 1       | 1     | 3  | 1   | 1            | 3   |
| 1000万円以上~5000万円未満 | 9          | 8   | 9  | 9  | 3     | 3    | 6    | 1     | 5     | 2   | 2       | 1     | 3  | 1   | 3            | 2   |
| 5000万円以上~1億円未満    | 2          | 5   | 3  | 3  | 0     | 0    | 4    | 0     | 0     | 0   | 0       | 0     | 0  | 0   | 1            | 0   |
| 1億円以上             | 6          | 4   | 5  | 3  | 0     | 3    | 7    | 0     | 1     | 1   | 0       | 1     | 3  | 0   | 0            | 1   |
| わからない、教えたくない      | 0          | 1   | 1  | 0  | 0     | 1    | 0    | 0     | 0     | 0   | 0       | 0     | 0  | 0   | 0            | 0   |

# ■活動が「孤独・孤立」対策につながっているか

法人格に関わらず、ほとんどの団体が自覚的に「孤独・孤立」を意識して活動していることが表れている。

図表52

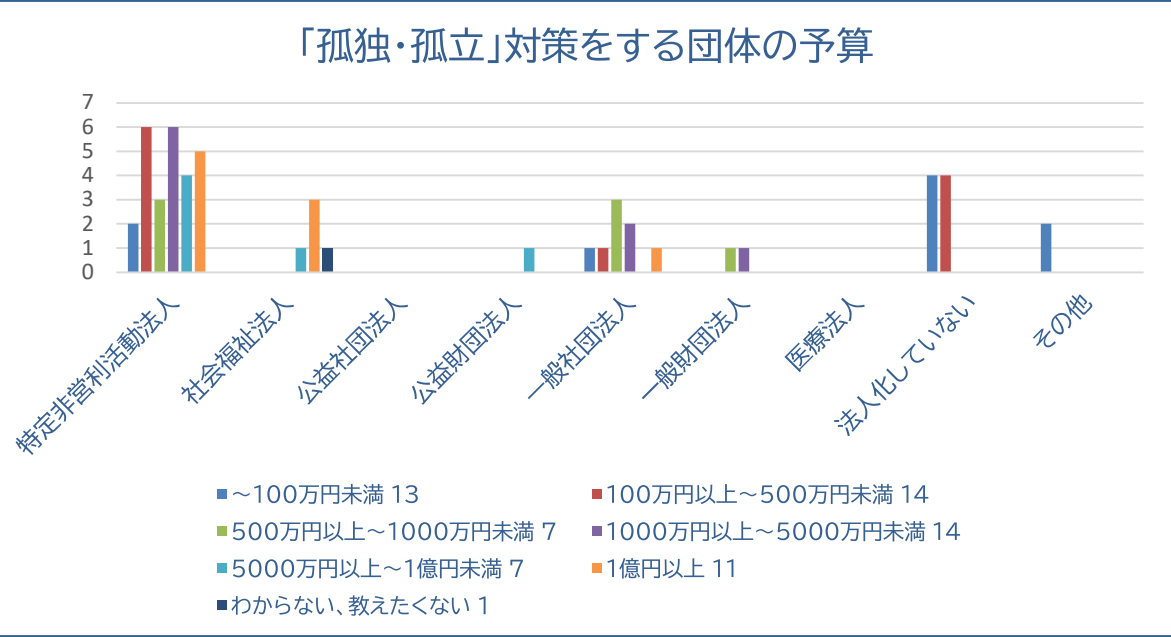


図表53

|     |           | 全体   | つながっている | つながっていない | わからない |
|-----|-----------|------|---------|----------|-------|
| 法人格 | 全体        | (67) | 52      | 4        | 11    |
|     | 特定非営利活動法人 | (30) | 26      | 1        | 3     |
|     | 社会福祉法人    | (6)  | 5       | 0        | 1     |
|     | 公益社団法人    | (1)  | 0       | 0        | 1     |
|     | 公益財団法人    | (1)  | 1       | 0        | 0     |
|     | 一般社団法人    | (13) | 8       | 3        | 2     |
|     | 一般財団法人    | (3)  | 2       | 0        | 1     |
|     | 医療法人      | (0)  | 0       | 0        | 0     |
|     | 法人化していない  | (11) | 8       | 0        | 3     |
|     | その他       | (2)  | 2       | 0        | 0     |

■「孤独・孤立」対策を意識して活動する団体の予算

図表54



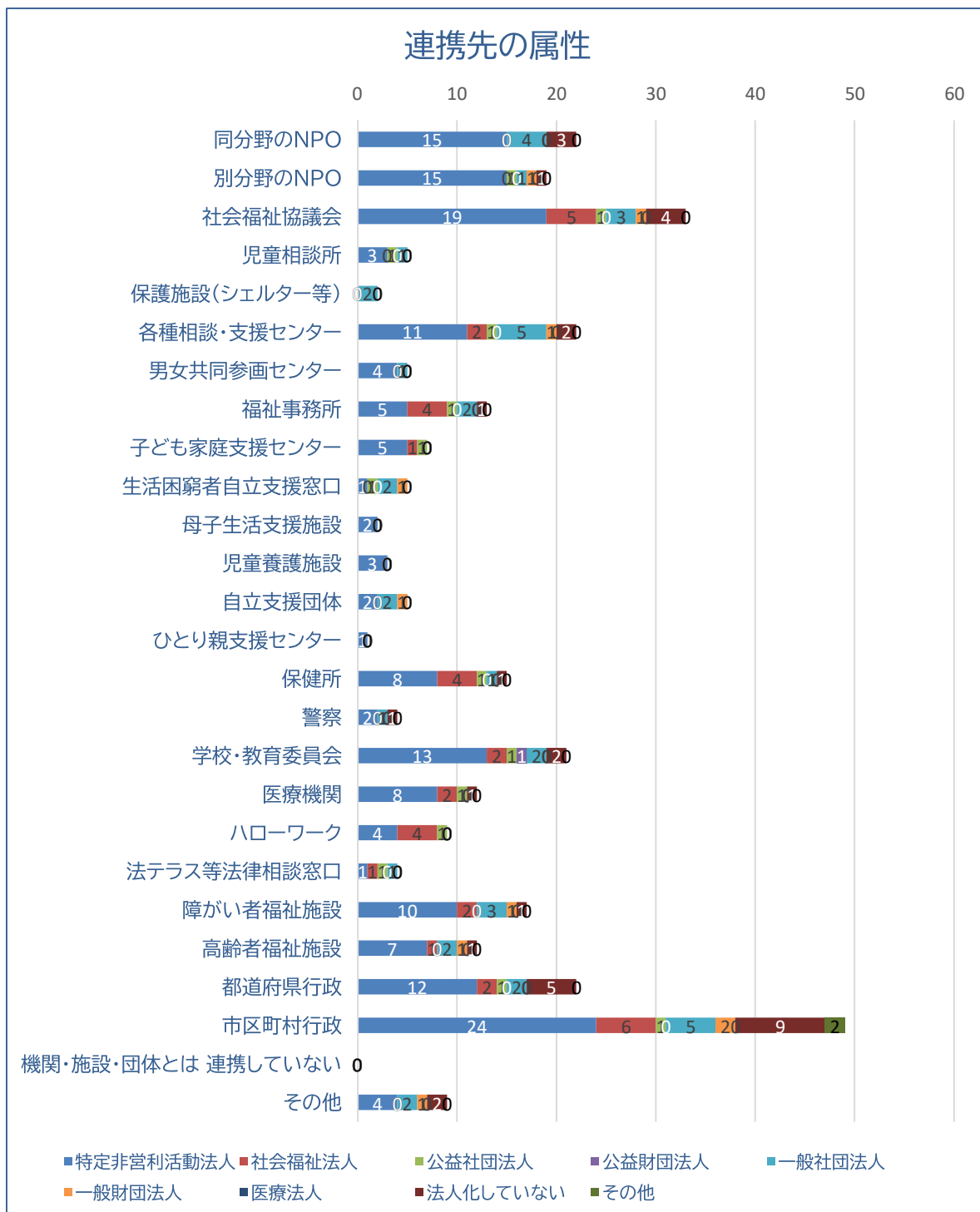
図表55

|           |                   |    |
|-----------|-------------------|----|
| 特定非営利活動法人 | 全体                | 26 |
|           | ～100万円未満          | 2  |
|           | 100万円以上～500万円未満   | 6  |
|           | 500万円以上～1000万円未満  | 3  |
|           | 1000万円以上～5000万円未満 | 6  |
|           | 5000万円以上～1億円未満    | 4  |
|           | 1億円以上             | 5  |
|           | わからない、教えたくない      | 0  |
| 社会福祉法人    | 全体                | 5  |
|           | ～100万円未満          | 0  |
|           | 100万円以上～500万円未満   | 0  |
|           | 500万円以上～1000万円未満  | 0  |
|           | 1000万円以上～5000万円未満 | 0  |
|           | 5000万円以上～1億円未満    | 1  |
|           | 1億円以上             | 3  |
|           | わからない、教えたくない      | 1  |
| 公益社団法人    | 全体                | 0  |
|           | ～100万円未満          | 0  |
|           | 100万円以上～500万円未満   | 0  |
|           | 500万円以上～1000万円未満  | 0  |
|           | 1000万円以上～5000万円未満 | 0  |
|           | 5000万円以上～1億円未満    | 0  |
|           | 1億円以上             | 0  |
|           | わからない、教えたくない      | 0  |
| 公益財団法人    | 全体                | 1  |
|           | ～100万円未満          | 0  |
|           | 100万円以上～500万円未満   | 0  |
|           | 500万円以上～1000万円未満  | 0  |
|           | 1000万円以上～5000万円未満 | 0  |
|           | 5000万円以上～1億円未満    | 1  |
|           | 1億円以上             | 0  |
|           | わからない、教えたくない      | 0  |
| 一般社団法人    | 全体                | 8  |
|           | ～100万円未満          | 1  |
|           | 100万円以上～500万円未満   | 1  |
|           | 500万円以上～1000万円未満  | 3  |
|           | 1000万円以上～5000万円未満 | 2  |
|           | 5000万円以上～1億円未満    | 0  |
|           | 1億円以上             | 1  |
|           | わからない、教えたくない      | 0  |
| 一般財団法人    | 全体                | 2  |
|           | ～100万円未満          | 0  |
|           | 100万円以上～500万円未満   | 0  |
|           | 500万円以上～1000万円未満  | 1  |
|           | 1000万円以上～5000万円未満 | 1  |
|           | 5000万円以上～1億円未満    | 0  |
|           | 1億円以上             | 0  |
|           | わからない、教えたくない      | 0  |
| 医療法人      | 全体                | 0  |
|           | ～100万円未満          | 0  |
|           | 100万円以上～500万円未満   | 0  |
|           | 500万円以上～1000万円未満  | 0  |
|           | 1000万円以上～5000万円未満 | 0  |
|           | 5000万円以上～1億円未満    | 0  |
|           | 1億円以上             | 0  |
|           | わからない、教えたくない      | 0  |
| 法人化していない  | 全体                | 8  |
|           | ～100万円未満          | 4  |
|           | 100万円以上～500万円未満   | 4  |
|           | 500万円以上～1000万円未満  | 0  |
|           | 1000万円以上～5000万円未満 | 0  |
|           | 5000万円以上～1億円未満    | 0  |
|           | 1億円以上             | 0  |
|           | わからない、教えたくない      | 0  |
| その他       | 全体                | 2  |
|           | ～100万円未満          | 2  |
|           | 100万円以上～500万円未満   | 0  |
|           | 500万円以上～1000万円未満  | 0  |
|           | 1000万円以上～5000万円未満 | 0  |
|           | 5000万円以上～1億円未満    | 0  |
|           | 1億円以上             | 0  |
|           | わからない、教えたくない      | 0  |

## ■法人格別活動の連携先属性

市区町村行政との連携が突出しており、公的機関や、社会福祉協議会との連携が目立つ。民間では、同分野で活動するNPOとの連携が中心となっているが、分野の異なるNPOとの連携も少なくないことが注目される。

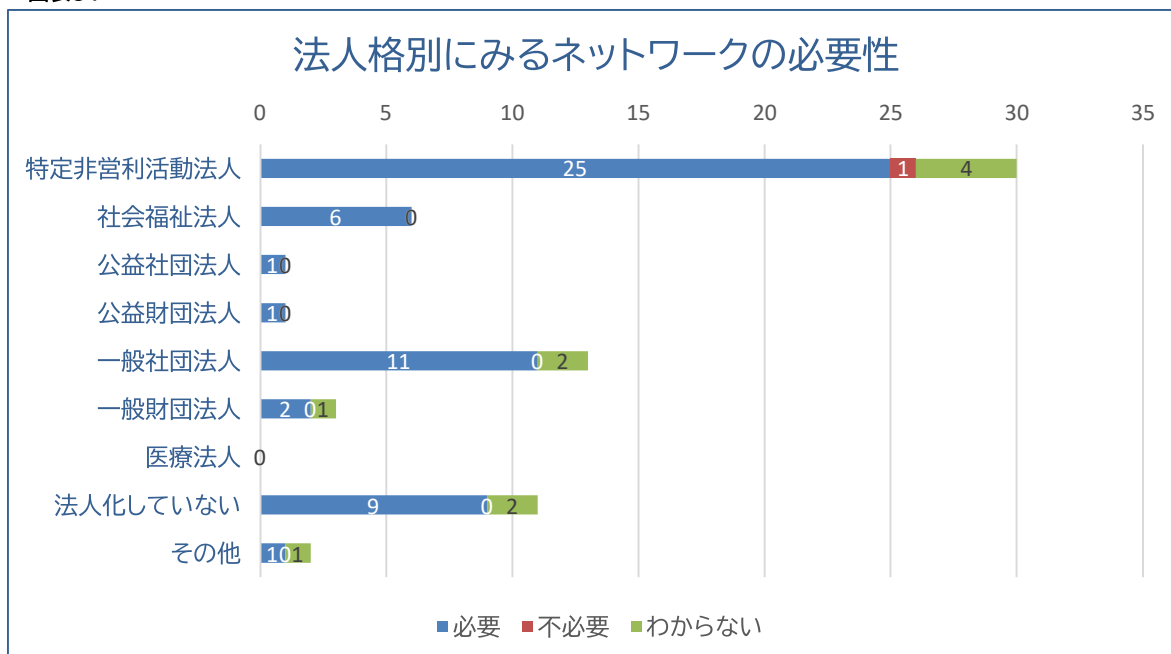
図表56



## ■活動におけるネットワークの必要性

ネットワークについてどう思っているのかを、法人各別に集計した。  
圧倒的に他団体とつながることに必要性を抱いていることが見て取れる。

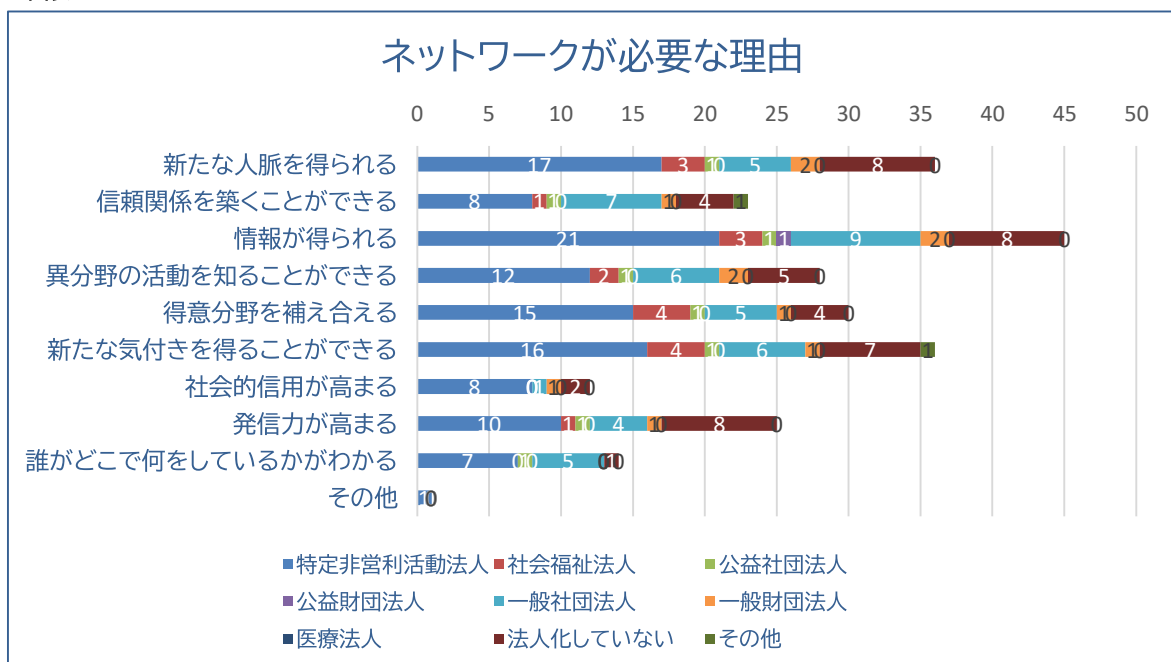
図表57



## ■ネットワークに参加する意義

ネットワークが必要な理由を集計した。「情報」「人脈」「新たな気付き」を得られ、活動を「補い合い」「信頼関係を築く」ことができるという結果となった。

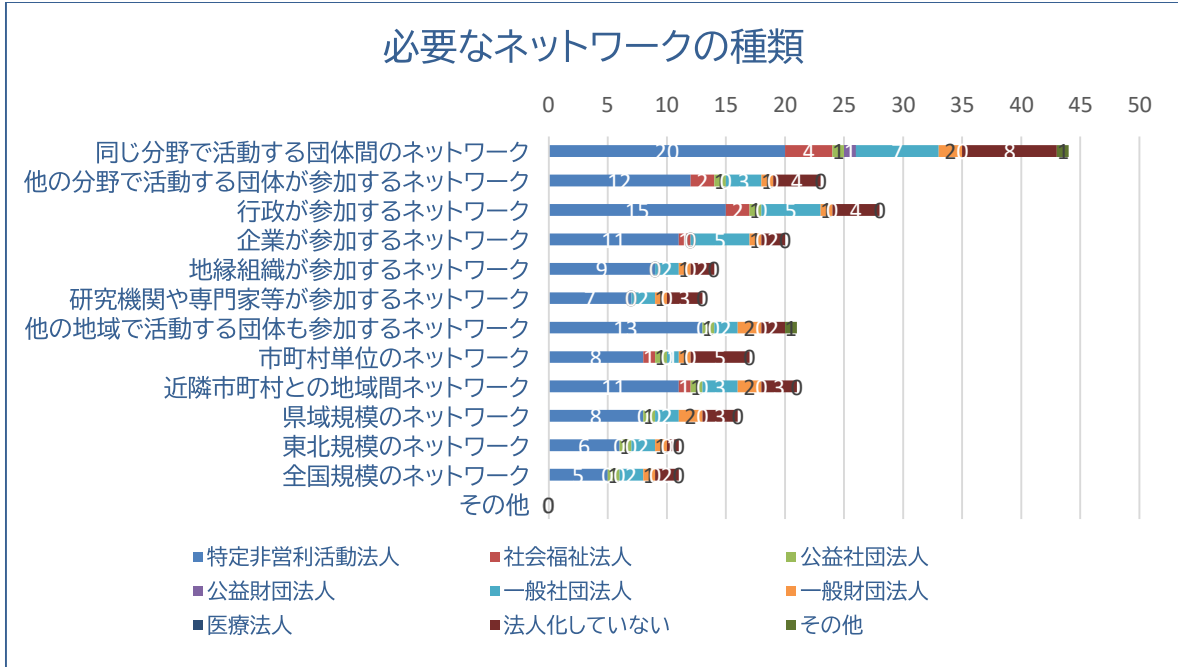
図表58



## ■必要なネットワークの内容

同分野間のネットワークが最大となっている中で、他地域で活動する団体が参加するネットワークに対する必要性を挙げているNPO等も多くなっている。

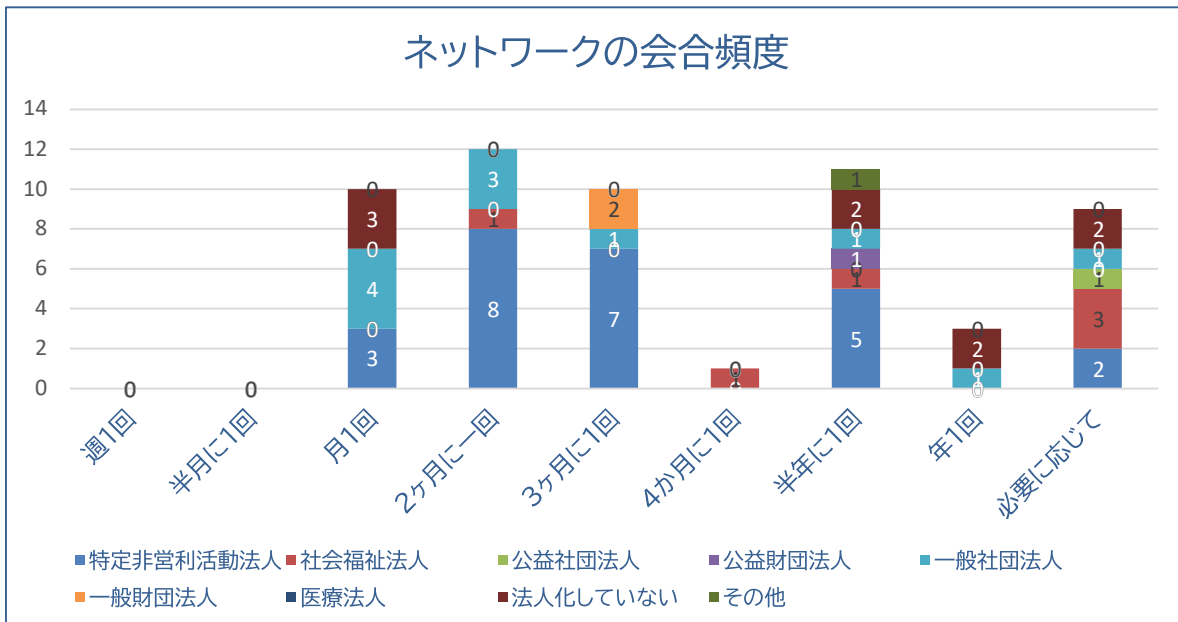
図表59



## ■ネットワークの会合頻度

「特定非営利活動法人」「一般社団法人」は、2ヶ月前後に1回の会合開催を希望している。

図表60

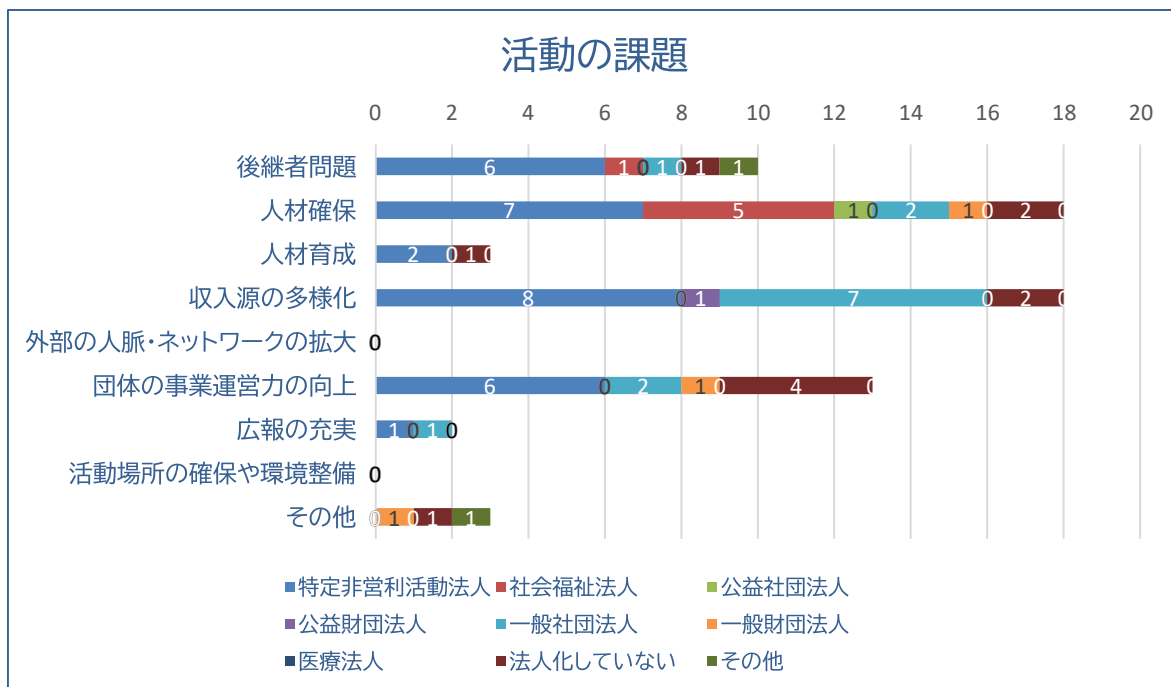


## ■活動する上で課題と考えていること

恒常的な課題である「ヒト」「カネ」を課題に挙げる団体が多い。

上記以外に、NPO等の非営利組織は運営力を課題に挙げているが、社会福祉法人では人材の確保が大きな課題となっている。

図表61



## 〈アンケート調査の総括〉

### (1) NPO等の現状確認

- ・東日本大震災後に支援活動団体が大幅に増加した。(図表 5・6)
- ・「助成金／補助金」が主たる活動財源である。(図表 8)
- ・「孤独・孤立」対策を意識して活動をしている団体がほとんどである。(図表 12)
- ・行政等と他セクターとの連携がみられる。(図表 20)
- ・活動の課題と必要な支援は、「ヒト」「カネ」「組織運営」。(図表 23・24・25・26・27・28)
- ・ネットワークは必要。「情報」「人脈」「気付き」が得られる。(図表 30)
- ・ネットワークには、他分野・他地域の団体参加への期待がある。(図表 31)

多くの団体が抱える人材と財源といった課題解決に必要な支援が求められている。ネットワーク構築に対する期待も感じ取れる。3市の特徴を活かし合い補い合う分野や自治体を横断するための橋渡し役として、中間支援の役割は大きい。

### **(3) NPO向け研修(勉強)・ネットワーキング(交流)**

**目 的：**気仙地域でのネットワーク化と活動基盤の強化を見据え、アンケート調査結果を基に活動団体のニーズに合った活動団体向けの勉強会を実施することで、「孤独・孤立」に対する理解を深めるとともに、有効な活動を学ぶ。

**対 象：**気仙地域各市で活動するNPO等

**実施方法：**対面形式、各市ともに同一内容で実施

**開催日時：**気仙沼会場 令和6年2月21日(水) 14時00分～16時30分

陸前高田会場 令和6年2月22日(木) 10時00分～12時30分

大船渡会場 令和6年2月22日(木) 14時30分～17時00分

「孤独・孤立について考えてみましょう」

#### ●「勉強会」の開催

**講師：**吉田 建治 氏(特定非営利活動法人日本NPOセンター事務局長)

- ・「内閣官房孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム監事」でもある講師から「孤独・孤立」とはどのような状態に陥ることを指すのかを説明していただいた。併せて、令和6年4月1日から施行される「孤独・孤立対策推進法」の狙いと目的の解説をしていただき、地域のNPO等活動団体に求められる支援の考え方について学ぶ場とした。

- ・アンケート調査分析結果の一部について、考察を交えながら発表した。

気仙沼会場：木下 雄太(特定非営利活動法人おおふなと市民活動センター理事長)

陸前高田会場：塚本 卓(一般社団法人気仙沼まちづくり支援センター代表理事)

大船渡会場：三浦 まり江(特定非営利活動法人陸前高田まちづくり協働センター理事長)

- ・各市1回ずつの計3回実施(交流会と併催)。

#### ●「交流会」の開催(「勉強会」と併催)

**コーディネーター：**田尻佳史氏(特定非営利活動法人日本NPOセンター常務理事)

ワークショップ形式で以下のことを行った。

「自己紹介」～「所属」～「参加理由」～「自身が孤独を感じる時」を共有。

上記の項目から、お互いを知り「孤独」を自分事として考える場を形成。

次に、「身近で気になる人」を付箋に示し、参加者が一緒に「考えられる解決策」を検討して行くことで、「孤独・孤立」に対する気付きを得る機会となり、それまで接点のなかった参加者間の新たなつながりを生み出す機会とした。

令和5年度「孤独・孤立対策活動基盤強化モデル調査」事業

# 孤独・孤立について 考えてみましょう



要事前申込

参加無料

生活様式の多様化、東日本大震災や新型コロナウイルスの影響などにより人と人とのつながりが希薄化し、単身世帯や単身高齢世帯の増加が見込まれる中で、孤独・孤立の問題の深刻化が懸念されています。  
この勉強会では、「孤独・孤立対策推進法」について学びつつ、誰もが安心して暮らせる地域であるために必要なことは何かをみんなで考えます。

**2/21(水)14:00~16:30(開場 13:30~)**

【会場】 気仙沼市魚市場A棟3階 第1・2会議室  
〒988-0037 宮城県気仙沼市魚市場前8-25

**2/22(木)10:00~12:30(開場 9:30~)**

【会場】 高田松原津波復興祈念公園 管理事務所内会議室  
〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字中宿 24-3

**2/22(木)14:30~17:00(開場 14:00~)**

【会場】 キャッセン大船渡 コミュニティスペース  
〒022-0002 岩手県大船渡市大船渡町野々田 12-33

**対象** 気仙地域で地域課題解決に向け活動を行う団体

**参加費** 無料

**申込方法** お名前・ご所属・連絡先・メールアドレス、参加会場を下記お申し込み先まで、メールまたは電話でお申し込みください。下記 QR コードからも受け付けております。

## 講師紹介



認定特定非営利活動法人  
日本 NPO センター  
事務局長

よしだ けんじ  
吉田 建治 氏

【プロフィール】1979 年奈良市生。立命館大学政策科学部卒。2017 年より現職。NPO 関連法規制改正、災害支援などを担当。NPO が多様なステークホルダーと共に地域課題に取り組む機会作りを進めている。

内閣官房孤独・孤立対策推進プラットフォーム設置、全国社会福祉協議会ボランティア・市民活動振興センター運営委員、東京ボランティア・市民活動センター運営委員、中央共同募金会「災害ボランティア・NPO 活動リポート」委員、内閣府「災害ボランティア活動における多様な主体による連携・協働に関する検討会」委員(令和 2 年度)。

## 第1部 勉強会

- 「孤独・孤立対策推進法ってなに？」  
講師：認定特定非営利活動法人日本 NPO センター 事務局長 吉田 建治 氏
- 気仙地域での取り組み実態 アンケート調査の結果公表と詳細説明  
発表者：【気仙沼会場】おおふなと市民活動センター 理事長 木下雄太  
【陸前高田会場】気仙沼まちづくり支援センター 代表理事 塚本卓  
【大船渡会場】陸前高田まちづくり協働センター 理事長 三浦まり江

## 第2部 情報交換 交流会

- 「気仙地域での孤独・孤立対策をみんなで考えよう」  
コーディネーター：認定特定非営利活動法人日本 NPO センター 常務理事 田尻 佳史 氏
- 気仙地域での取り組み拡充の意見交換
- 名刺交換会

【主催】 気仙地域孤独孤立対策ネットワーク(仮称)

お申し込み・お問い合わせ

- 一般社団法人気仙沼まちづくり支援センター  
Tel.0226-22-3780 (担当:塚本)  
Mail.kesennuma.machicen@gmail.com
- 特定非営利活動法人陸前高田まちづくり協働センター  
Tel.0192-47-4776 (担当:三浦)  
Mail.lrtkyodo@gmail.com
- 特定非営利活動法人おおふなと市民活動センター  
Tel.0192-47-5702 (担当:木下)  
Mail.shimin@ofunatocity.jp

Web からの  
お申し込みはこちらから！



本事業は「内閣官房(孤独・孤立対策担当室)」の委託を受け実施しています。

## 「勉強・交流会」参加者アンケート

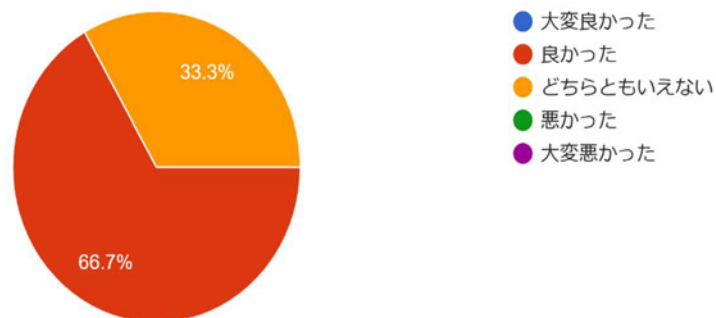
### 〈気仙沼会場〉

参加者数：17名／アンケート回答者数16名

参加者の属性：仙台市拠点のNPO：2名、一般社団法人：1名、任意団体：3名、  
社会福祉協議会：7名、市外社会福祉協議会：1名、市職員：1名、  
市議会議員：1名、一般市民：1名

1. 全体を通して参加していかがでしたか？該当するものに○をつけてください。

15件の回答



1. の回答理由もお聞かせください

- ・法律は少しむずかしく感じたけど良かったです。
- ・WS でそれぞれの課題感をうかがえたこと。
- ・孤独・孤立について理解が深まった。
- ・ていねいな説明で理解しやすかった。

2. 第1部勉強会はいかがでしたか？該当するものに○をつけてください。

16件の回答

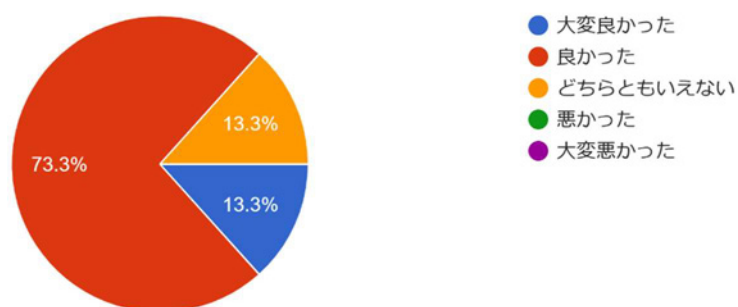


2. の回答理由もお聞かせください

- ・異種・異質の組織との関わりを意識しながら活動していきたいと思いました。
- ・専門的な話を初めて聞いた。
- ・調査報告の傾向をうかがえたこと。
- ・遅れてきたので全て聞けなかった。
- ・法律の難しいことを、少しわかりやすく解説していただき、このような法ができたことは理解できました。

3. 第2部交流会はいかがでしたか？該当するものに○をつけてください。

15件の回答

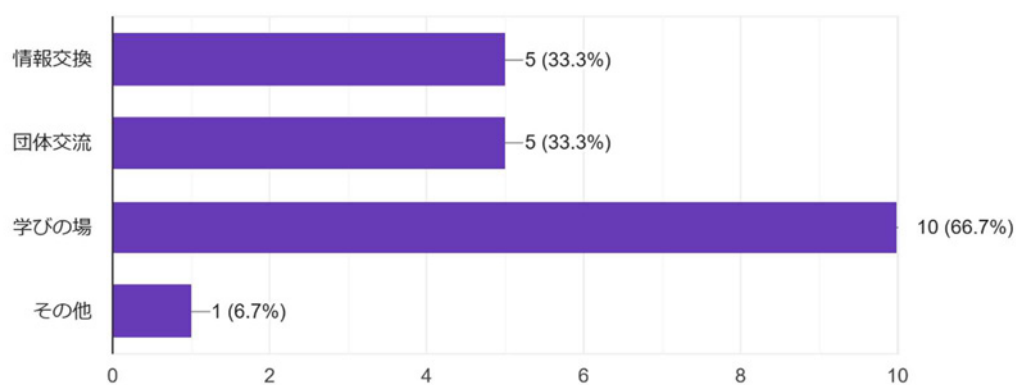


3.の回答理由もお聞かせください

- ・情報交換ができました。
- ・いろいろな意見を聞いて良かった。
- ・ご本人のかかえる心配を直接きけたこと。
- ・孤独・孤立について意見交換できた。
- ・具体的な説明をいただき大変理解できた。

4.どのような内容であれば孤独・孤立のネットワークに参加したいと思いますか？該当するものに○をつけてください。

15件の回答



4.で「その他」を選んだ理由もお聞かせください

- ・団体紹介ができる時間があればよいと思います。
- ・もっともっと具体的に理解したい。
- ・検討します。

5. 本日ご参加した感想やご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

- ・具体的なデータを例を示してお話いただき理解が深まりました。
- ・いつも活動している時に足りていなかった視点をアップデートするきっかけになりました。
- ・次回も機会があれば参加してみたい。
- ・ありがとうございました。
- ・本日はありがとうございました。
- ・企画ありがとうございます。
- ・ありがとうございました。

### 会場風景



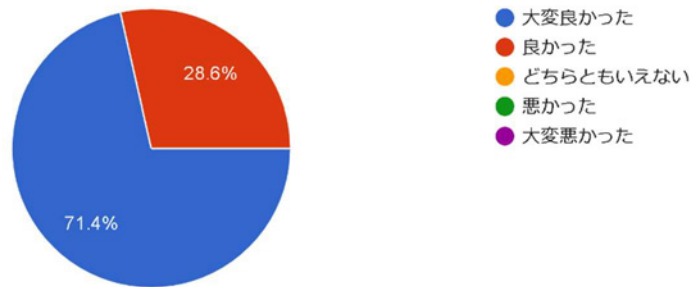
### 〈陸前高田会場〉

参加者数 : 7名／アンケート回答者数7名

参加者の属性：陸前高田拠点のNPO：1名、市職員：2名、市外の一般社団法人：2名、市外の労働者協同組合：2名

1. 全体を通して参加していかがでしたか？該当するものに○をつけてください。

7件の回答

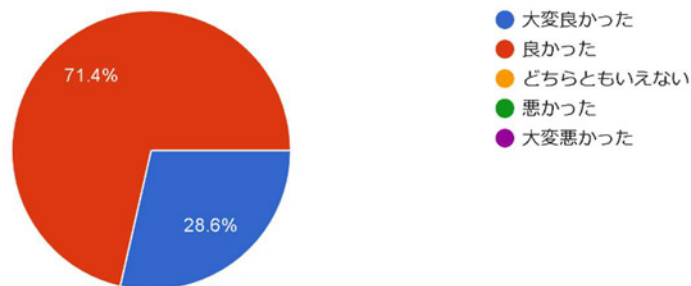


1.の回答理由もお聞かせください

- ・具体的に考える事が良かったかな。
- ・分かりやすい資料でした。
- ・当団体も孤独・孤立を防ぐ取り組みを行っています。

2. 第1部勉強会はいかがでしたか？該当するものに○をつけてください。

7件の回答

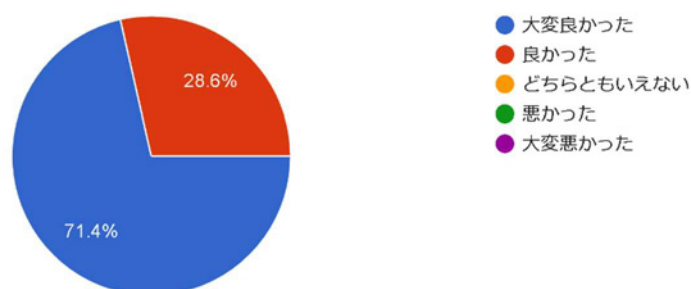


2.の回答理由もお聞かせください

- ・難しいが大きくとらえる事では良かったかなと思う
- ・説明が上手でした。
- ・法律の事、前向きな活動(課題解決のためのチャレンジ)法整備は緩いからいいけど、良いのか悩ましい。

3. 第2部交流会はいかがでしたか？該当するものに○をつけてください。

7件の回答

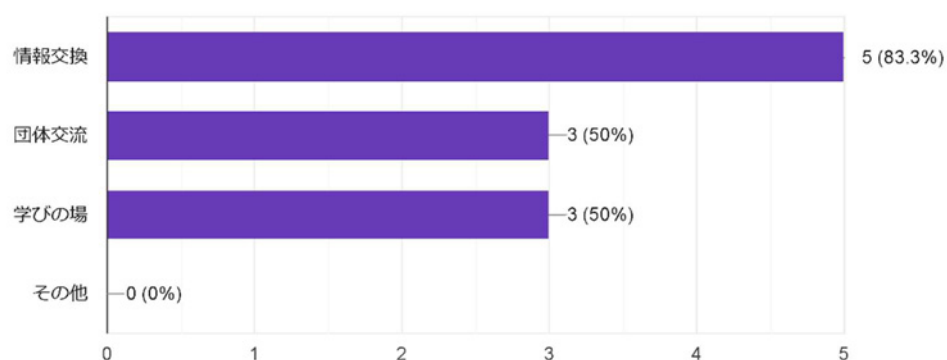


3.の回答理由もお聞かせください

- ・意見の交流が出来て良かった
- ・対面形式で様々お話出来参考となりました。
- ・具体的で身近なものをイメージしやすくて良かったです。

4.どのような内容であれば孤独・孤立のネットワークに参加したいと思いますか？該当するものに○をつけてください。

6件の回答



4.で「その他」を選んだ理由もお聞かせください

- ・回答なし

5. 本日ご参加した感想やご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

- ・普段、自身で感じていない事を学ぶ事が出来た。同様の研修に参加したと強く感じております。
- ・孤独・孤立に対しての考え方や捉え方が違う。
- ・もう少し情報交換や交流の時間があればなあ～と。

会場風景



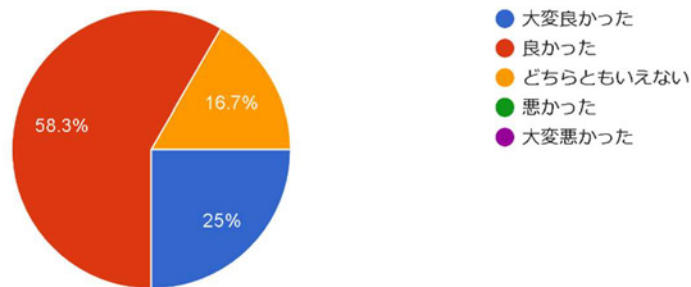
### 〈大船渡会場〉

参加者数 : 14名／アンケート回答者数7名

参加者の属性 : 大船渡拠点のNPO : 9名、市外のNPO : 2名、社会福祉協議会 : 1名、  
市外の一般社団法人 : 2名

1. 全体を通して参加していかがでしたか？該当するものに○をつけてください。

12件の回答

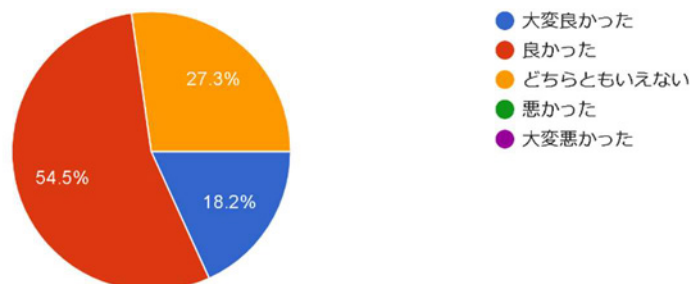


1の回答理由もお聞かせください

- ・わかりやすかった。
- ・孤立、孤独の対策。
- ・久しぶりに勉強会に参加したので、脳が活性化しました。国単位の情報が知れてよかったです。
- ・制度について知ることができた。
- ・制度が知れた。
- ・孤独孤立対策推進法について聞けて良かった。
- ・他団体の活動がしれて良かった。
- ・社会参加することで孤独・孤立の解放であったり、深刻化する前の予防としての事例がとても解りやすかったです。今後も参加したり連携していきます。
- ・「孤独孤立対策推進法」を知れたこと。

2. 第1部勉強会はいかがでしたか？該当するものに○をつけてください。

11件の回答

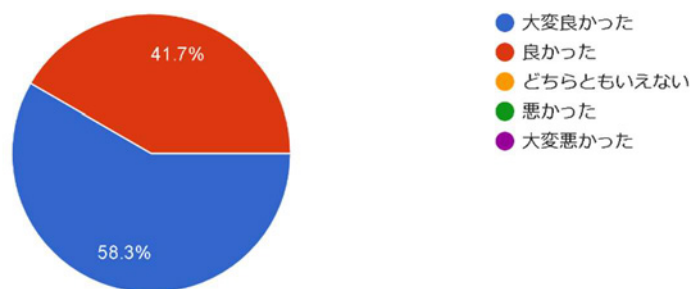


## 2.の回答理由もお聞かせください

- ・NPO の意義
- ・孤独孤立対策推進法について殆ど知らなかったなので、勉強になりました。予算の具体的な配分についてもっと明確に知りたいと思う。調べてみたい。
- ・具体的な対策へのアドバイスも欲しかった。
- ・上記と同じ。
- ・普段の活動が孤独孤立対策になっていると分かり、良かった。
- ・「孤独孤立対策推進法」成立したことは知っていたが、少し理解できた。
- ・政策に対して、どうかかわっていったら効果的なのかといったところまで説明頂き、理解しやすかった。しかし国の予算の規模感が内容を満たすのか？必要性のニーズはあったものの中々チャレンジできずらいのではないか、努力義務だからなのかとモヤモヤしました。
- ・アンケート集計結果の内容を知れたこと。

## 3. 第2部交流会はいかがでしたか？該当するものに○をつけてください。

12 件の回答

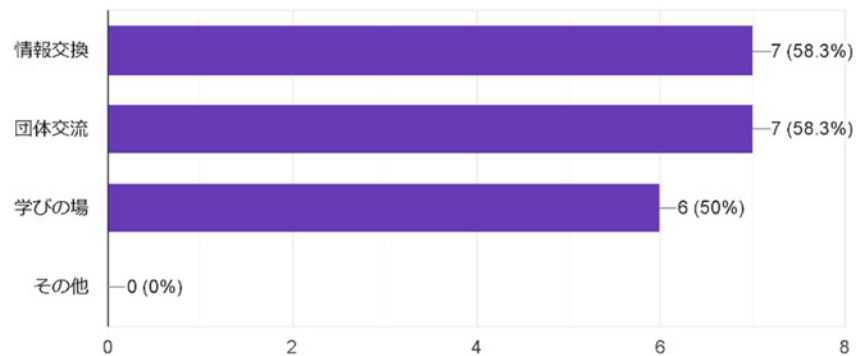


## 3.の回答理由もお聞かせください

- ・テンポよく、飽きなかった。
- ・情報交換が出来た。
- ・「ボランティア活動する人は長生き」という言葉を活用していこうと思います。孤立していると思う人の把握～対処法を考えるワークショップは勉強になりました。「関係性の風通し」いいですね。
- ・興味増々、他人事ではないなあ～と不安増
- ・他の方の意見を聴けたのが良かった。
- ・何で必要なかがわかった。
- ・数字をもって話されると分かりやすい。問題のみえるか分かりやすい。
- ・身近なところに孤独や孤立はあるが、予防したり救ったりするのも人との関係性であることから、アンテナを張ることの大切さを知りました。
- ・深く考えられた(孤独・孤立について)。

4.どのような内容であれば孤独・孤立のネットワークに参加したいと思いますか？該当するものに○をつけてください。

12件の回答



4.で「その他」を選んだ理由もお聞かせください

- ・機能連携、協働。
- ・国や地方自治外への働きかけを非営利団体で結束して行動するような機会があるのもよいかも。
- ・他市町村の取り組み事例が知りたい。
- ・③法について。

5. 本日ご参加した感想やご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

- ・楽しかった。
- ・今後の対策方法の参考となった。
- ・このような機会をつくっていただきありがとうございます。いつもながら田尻さんのお話をきくと元気をもらえます！
- ・フセン紙、使用のゲームかんかくが楽しかった。
- ・時間がもう少し欲しかった。
- ・若者の不登校や引きこもりに心がいたむ。自分達で何ができるのか少し考えてみたいと思った。
- ・今日はありがとうございました。
- ・アンケート集計の発表が良かったです。地域の傾向やニーズが分かりやすかったです。多分野における連携が期待できそうですね。
- ・いろいろな情報交換ができ、理解が深まりました。

会場風景



## 勉強・交流会の総括

- ・内容を同一として3市連続で開催というタイトなスケジュールではあったが、結果として思わぬ効果をもたらした。それは、市域を越えた参加が見られたことである。気仙沼会場に陸前高田の団体、陸前高田会場に気仙沼の団体、大船渡会場に陸前高田の団体の参加が見られたことは大きな収穫となった。今後、気仙地域としてネットワーク構築を考える上においても重要な点といえる。
- ・参加者アンケートの結果からは、法を定め国として取り組むことへの学びと、支援者として取り組むことは何であるのか、連携の意義についての理解が進んだように見受けられる。ワークを通じては、活動団体間の情報・意見交換により新たなつながりを生む機会となったこと、「孤独・孤立」について、仕事として考えることから、身近な事例を考えているだけでなく、自分はどのような状態にあるのかを見つめる機会となったことで、「孤独・孤立」をより身近に考える素地ができたことがうかがえる。
- ・参加者の多くが、学びの機会や、交流の機会を求めていることが明確になったことから、孤独・孤立対策のネットワーク形成に向けた計画作りが重要となる。

## **（４）検証、「調査報告書」の作成**

**目 的：**事業終了後も継続的なネットワークとするため、アドバイザーを交えて事業全般の振り返り・検証を行い、NPO支援の本事業の「調査報告書」としてまとめる。

**実施方法：**

### ●ネットワーク会議での振り返り、検証

構成団体による実施事業の整理を行い、アドバイザーを招聘し事業を振り返り検証、成果と課題を洗い出し、今後の展開について継続して話し合うこととなった。

### ●最終報告書の作成と次年度以降の展開の協議

- ・最終報告書の構成協議し、最終報告書（本書）を作成。
  - ・配布先は、気仙地域で活動するNPO等の支援団体や行政機関等の協力機関等。
- 今後も続的に事業を展開するために活用する。

## 4. 事業成果

### 本事業実施の意義

#### (1) 自治体を越えた協働

- ・岩手県大船渡市、陸前高田市と宮城県気仙沼市の間支援組織の間に、市や県を跨ぐ形で事業を行えたことで、それぞれの市の強みや特徴を知ることができた。また、地域で活動する団体に詳細な調査を実施したことにより、これからの気仙地域の「孤独・孤立」対策は勿論のこと、団体活動を支える上において必要となる資源を確認できた。
- ・中間支援組織三者の関係性も深まり、今後も協力して課題解決に取り組んでいこうという機運が高まったことから、継続して協力する体制の基盤構築ができた。
- ・自治体ごとに独自の組織体制がある等。事業対象3市の福祉施策、体制の違いが確認できたことから、それぞれの利点について考えることができた。

#### (2) 気仙地域で活動する団体の実態

- ・気仙地域の3市それぞれで市民活動に色の違いがあることが分かった。大船渡は高齢者や生活困窮者に対しての支援、気仙沼は「子ども」や「障がい者」、「困窮者」支援など、ひとつの分野に複数のプレイヤーがいる。一方で陸前高田は、分野に1団体という状態で同一分野内のプレイヤーの数が少なく、「孤独・孤立」化のリスクが高い傾向にある「高齢者」、「ひとり親」、「障がい者」を中心としたテーマ毎の地域内ネットワークをつくるのが難しいため、今回のような広域対象のネットワークが有効であると感じた。他地域団体との連携・協働は人的課題の解消のひとつの方法にもなり得る。
- ・多様な分野が関わるのが「孤独・孤立」対策の推進には重要な要素だが、アンケート調査結果からも分かるように、「孤独・孤立」対策を専門としない団体であっても、日頃からこのテーマに活動が繋がると意識している団体が当地域には多いことがはっきりした。
- ・アンケート調査結果から、3市それぞれで異なる強みを持っていることがわかった。地域課題解決の実動につなげるための資源は3市を合わせれば十分にある。
- ・気仙沼、陸前高田、大船渡の3会場で開催した勉強会／交流会では、当初、開催市の活動団体のみが参加すると考え、同一市内の活動団体間の交流を想定していたが、開催日の都合が合わないなどの理由から、他市の会場に参加する団体があり、自治体を越えた交流機会となり、新たなつながりが生まれた。各市の担当課職員や社協職員の参加もあり、気仙地域として課題解決に取り組む下地をつくることができた。

## 5. 課 題

### （１）活動団体の現状確認と調査対象の精査

- ・調査対象の団体を精査するための話し合いに時間をかける必要があった。事業実施構成団体それぞれで、情報を有する団体の属性が異なっており、調査対象を共通とするための話し合いに時間を要した。
- ・日常的に関係のある以外の情報収集の機会となったものの、東日本大震災後の支援活動を目的とした団体が活動を休止、解散していることが明らかになるとともに、震災前から活動していた団体も連絡先不明で活動の確認が困難な状態にあることがわかった。また、地縁組織（自治会）が支援対象である構成団体もあり、調査対象にすることも検討したが、当該構成団体以外は個人情報保護法の関係で地縁組織の役員の連絡先が分からず、3市間で調査対象を統一できないことから対象外とした。これらの要因から、想定調査団体数が大幅に減少することとなった。
- ・運営課題として挙げられた財源、人材不足・人材育成、事業運営力についての支援策を講じるため掘り下げや追加調査を実施し、その上で複数回の各種勉強会、交流会を実施できればよかったのだが、調査自体に想定よりも時間がかかってしまったことで、計画していた内容を十分に実行できなかった。

### （２）調査協力団体数が少なかった

- ・調査内容について、自覚的に「孤独・孤立」対策に関係する活動をしていない団体でも、意識せずに活動の結果として「孤独・孤立」化を未然に防いでいたり、当事者を支えることにつながっている団体の状況も把握したい意図があった。自分たちが行っている活動には関係のない調査と考え回答を見合わせてしまう懸念も抱いていたことから、出来る限り「孤独・孤立」という直接的な表現をしないように広く調査を実施することを考えていた。しかし、調査意図が不明確になってしまったせいもあるのか、未回答の団体が多かったことは、大きな課題として残った。

### （３）活動原資の確保

- ・地方で活動する中間支援組織の多くは活動原資が行政委託であることが多いが、委託外の活動をするためには活動に時間と財源の確保が深刻な課題となる。それに加え、中間支援組織に対する資金援助の仕組みも脆弱である。中間支援の存在意義を的確に伝え理解と共感を得ること、その結果として財源を得て地域課題解決と社会変革を進め支える立場としての基盤強化を推し進める必要がある。

## 6. 今後の展開

### 展 開

- ・ これまでも地域の中間支援組織として活動してきたが、改めて調査を行うことで、思いもなかった団体の側面を知ることができた。併せて、調査に回答した地域活動団体のほとんどが「孤独・孤立」対策につながる活動であると考えていることは、新たな発見である。自覚的に活動していることが基本になっているのなら、活動団体それぞれが事業をしっかりとやっていくことが「孤独・孤立」の予防や解消につながるという見方もできる。そのためには、NPO等の活動団体が普段から行っている活動を継続して、クオリティをあげていくことが重要となる。中間支援組織として、団体の抱える課題解決に向けたサポートをするための事業を推進し、県域を越えた交流をきっかけに連携・協働によるアクションにつなげていく支援メニューを検討する。
- ・ 地方都市における支援活動の課題である人材不足、財源確保と、解消に向けた関係づくりが望まれていることから、各市で活動する団体の特徴を活かした学びの場を設ける。
- ・ 活動団体の現状がある程度明らかになったが、今まで以上に団体に対する調査とコミュニケーションを推進する。
- ・ これまでは、大船渡市／陸前高田市／気仙沼市内に限定することが多かった情報収集と提供が主であったが、今後は出来る限り「気仙地域」で活動する団体の情報提供を強化するよう努める。

「孤独・孤立」を生み出さない「気仙地域」であるために、枠（県・市・セクター・分野）にとらわれず、資源（得意な活動・専門知識を有する人材等）を繋ぎ合わせる中間支援の活動を、おおふなと市民活動センター・陸前高田まちづくり協働センター・気仙沼まちづくり支援センターが協働体制を継続し、必要に応じて「気仙地域」以外の組織とのつながりも意識しながらネットワーク構築に必要な事業を展開する。

多くの団体が抱えている「人材不足・育成」と「財源確保」といった課題解決に必要な支援が求められている。ネットワーク構築に対する期待も明らかである。

大船渡、陸前高田、気仙沼3市の特徴を活かし合い補い合う、分野や自治体を横断するための橋渡し役として、中間支援組織の役割は大きい。